

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2296300011		
法人名	(株)ブレインシステム		
事業所名	グループホーム虹の森(1F/2F ユニット合同)		
所在地	周智郡森町森1588-5		
自己評価作成日	平成25年1月1日	評価結果市町村受理日	平成25年3月12日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaijokensaku.jp/22/index.php?action_kouhyou_detail_2010_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=2296300011-00&amp;PrefCd=22&amp;VersionCd=022">http://www.kaijokensaku.jp/22/index.php?action_kouhyou_detail_2010_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=2296300011-00&amp;PrefCd=22&amp;VersionCd=022</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	有限会社システムデザイン研究所
所在地	静岡市葵区紺屋町5-8 マルシメビル6階
訪問調査日	平成25年2月3日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<ul style="list-style-type: none"> <li>●地元のボランティアや、幼稚園等からの慰問を積極的に受け入れ、地域とのつながりを図っている。</li> <li>●日々、体操・踊り・散歩などの活動を積極的に行い、身体機能の維持・向上を図り、自立支援を目指しています。</li> <li>●地域密着型施設としての役割を認識し、地域の活動への参加、地域の方々が、気軽に立ち寄れる施設 作りを目指します。</li> </ul>
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>遠州森山焼の陶房にほど近く、田園風景に抱かれて事業所はあります。勇壮な森町の祭りには利用者のローカル魂を鼓舞するパワーがあり、保育園児30名が来訪した祭り囃子の披露は利用者を大いに楽しませてくれています。食事作り、レクなどを2日間にわたり中学生4名が体験した学びは、管理者たちの申し入れで実現したもので、高校生の実習も定例化しています。毎日のラジオ体操と30分弱の1対1の随伴散歩が功奏し、車椅子から押し車での歩行で自信がいった事例は、利用者・家族・職員の大きな喜びとなり、また取組への支えとなりました。改善目標を実行に移し達成していく姿勢が顕著に見て取れる事業所になっています。</p>
---

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所側が社内研修を設けてその社内研修を通して理念を共有している	法人本部で月2回の研修があり「介護理念」「会社理念」「指針」について、基本姿勢の徹底した確認ができています。本年度はコミュニケーションをテーマに、毎日の申し送り時に話し合いを活性化させ、また、その日を振り返ることで浸透が図られています。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	施設内の行事である夏祭りなどには近所周辺の家庭にも遊びに来て頂けるようにちらしを配ったり、秋の地域の祭典時には屋台が寄って下さる	事業所の夏祭りの案内を近所に手渡し配布で参加が叶い、また地元の祭りには屋台が立寄り、お囃子の披露をしてくれています。園児30名が森町祭り囃子を披露し、ゲーム、肩もみなどのふれあいもある慰問もありました。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	高校生の実習は毎年受け入れているが新たに保育園による慰問、中学生の福祉体験を取り入れている		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	施設内の近況をお知らせし、また意見、質問をお聞きしてサービス向上に活かしている	参加呼びかけが叶わず、自治会や民生委員の参加は実現はしていませんが、今年度からは行政の出席があり、隔月開催もできています。また、家族の参加は大きな前進となりました。利用者への心配事相談などがあり、管理者の説明で安堵する家族もいます。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議などでは町内会長さんや役場担当の方をお呼びして施設の実情、ケアサービスの取り組みを伝え協力関係を築いている	本年度からは町の介護保険課担当が運営推進会議に参加してくれていて、親密に相談に乗ってもらえるなど距離の近さに繋がっています。地域包括には利用者状況などで報告に出向いています。介護相談員の訪問は3ヶ月に1度程度あります。	運営推進会議に行政の参加が叶い、大きな前進を見ましたが、会議議事録も担当者へ届け、さらなる協力関係が築かれることを期待します。
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	玄関を施錠することなく身体拘束もしていない。また身体拘束についての講習にも参加する様計画している	玄関施錠はありません。本部では外部研修への参加を奨励しており、身体拘束排除についても職員は積極的に参加しています。レポート提出とともにユニット会議内で共有化を図っています。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	今の学ぶ機会は設けていないが職員間ではそういうことが無い様注意を払っている		

### 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	特別、成年後見制度について学ぶ機会は設けていないが必要になった場合は支援できるようにしていきたい。 管理者は研修予定している		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時などは契約書を通し、十分な説明をし、納得を得ている。その都度質問等あれば聞くようにしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議などを通し、意見や要望を聞き入れる機会を設けている。	運営推進会議への家族の参加は、遠慮がちで来訪の少なかつた家族の面会が増えるという副産物も産んでいます。毎月送る職員手書きのコメントがある「虹の森通信」からも信頼を得られていて、意見の吸上げが盛んになっています。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	1ヶ月に1度のユニット会議を設けている	全体会議、ユニット会議が各々月に1回あり、発言し易い環境が整っており、シフト、レク、行事や設備面などで職員意見が出ています。意見は月1回の上層部施設会議に挙げ、向上改善に繋がっています。管理者には私事相談もあることから、風通しの良さが覗えます。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	管理者を通して職員の意見を月に1度の全体会議や施設会議などを通して把握に努めている		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	社内研修や講習への参加を促している		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	社外への研修、講習への参加の機会を設けている		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人とお話する機会を設けて安心を確保するための関係づくりに努めている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	受付時または面会時などに積極的に家族の方に話しかけ不安、要望等がないか確認し、関係づくりに努めている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	受付時または家族面会時、本人の日頃の様子を観察し職員、ケアマネ共にまず必要な支援を見極めるようにする		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員と一緒に洗濯物をただんだり、掃除したり、食事の支度をしたりと共に暮らす関係を築いている		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人のことは面会時、必要に応じては電話などでお知らせして家族と職員と共に考え本人を支えていく		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族、本人の指示がない限りは誰がいつ来ても面会は可能で関係が途切れ無い様支援に努めている	面会時間の定めがないため、家族、友人の仕事帰りの面会も多く、利用者の話し相手は尽きません。馴染んでいた神社に詣でたい希望を叶えたり、手芸編み物や毎日畑に行くことを習慣とする利用者の支援もおこなっています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	身体の不調が無い限り、入居者皆さんとレクリエーションや談話を交わして利用者同士の関わりに努めている		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	現在は行っていないが、家族の方が相談してきたことは対応したいと思っている		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	その方の今までの暮らし方を知りこの施設で可能な限り本人の意向に近づけるようにしたい	以前自分が編んだセーターを家族が持ち込んでくれたことで昔を思い出し、気持ちが前に向くようになり、意向の把握がしやすくなった利用者もいます。思いを自立の助けに繋げる取組みがみられ、「出来ることはなんでも言って」の言葉から一緒に食事を作るようになったという例もあります。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時、面会時、家族に聞いたり日々の生活でわかる方は本人に聞き取りをしている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々、施設内の生活の見守りの中で入居者を観察し、現状の把握に努めている		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	職員同士のミーティング時カンファレンスを行い介護計画を作成する。 毎月モニタリングも行っている	1施設1人ケアマネージャーの本部方針が実施され、介護計画の作成がより細やかでスピーディーになり、ケアの向上に繋がっています。担当制ですが、カンファレンスは全員でおこなっています。プラン見直し時には書面にサインで家族同意を得ています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	月に1度のユニット会議時に個別記録に基づいて職員間で情報を共有して介護計画を見直している		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	問題が発生した場合はその都度対応する様にしている		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	施設で借りている畑づくりを通して野菜や花を作り、育て、食したりして資源の大切さや育つ楽しみを見出すように支援している		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	毎月の定期受診の応援や必要時受診の応援を行っている	協力医、以前からのかかりつけ医ともに家族介助での受診を原則としていますが、必要に応じて職員が支援しています。受診時には介護情報のコピーを持参し医師に開示しているため適切な診療に繋がっています。看護師とは常に連絡が取れる状態で安心に繋がっています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	利用者に対して身体上のことで気がついたこと具合の悪い場合は看護師に連絡を取り指示を仰ぐようにしている		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	病院の相談員や地域連携室と情報の交換を行い、入院などいた時は病院関係者、家族と相談しながら受け入れ出来るように努めている		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	病院側、家族と話し合いを行い利用者にとってよい方向性に進むように支援している	家族、かかりつけ医との協力で1件の看取りがありました。職員間でも頻回に会議を行い看取りに至った実績は、事業所にとっても良い経験になりました。今後、出来る範囲で重度化には対応していきたいとの考えも生まれてきています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時の対応についても常に看護師と話し合い、マニュアルを準備し各職員のAED講習の参加を位置づけている		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	3月、9月には防災訓練を行い毎回ではないが避難訓練も行っている	年2回の防災訓練を行い、1回は消防署指導のもと担架や避難誘導の訓練を行いました。提携する警備会社が定期点検も行って、食料備蓄は3日分、防災ズキン・ヘルメットは常備し有事に備えています。夜間想定訓練はできていないため課題だと考えています。	防災意識の向上が覗えますが、人員が手薄となる夜間を想定した訓練を出来るだけ早い機会に実施されることを期待します。

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	目上の方に対する尊敬を含めた言葉かけを心がけて対応している	法人グループ内でのビジネスマナーや接遇研修の充実があり、レポートをもとに内部研修に繋がっているため、職員のケア技術の向上にも期待が膨らんでいます。特に利用者への尊厳を重視した声掛けや、プライバシーを確保した取組みに尽力しています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	物事を行う際は本人の意向を確認し進めるようにしている		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	本人の意向を確認し希望にそったペースで生活出来る様支援している		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人で決めることの出来る方は本人に決めて頂き、出来ない方は色合いの良い服を選び、みだしなみを整える支援を行っている		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	野菜を切って頂いたり、配膳、下膳の手伝いを一緒にしたりし、味付けもおいしく頂けるように努力している	テーブルには楚々とした花が彩りを添え、ランチョンマットには家庭的な料理が並んでいます。普段は業者からの食材を調理し提供していますが、行事食や楽しみ献立では職員と利用者が一緒に買物に行き、楽しさを美味しさに昇華させています。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養バランスを考えた食材の配達を契約しており、水分も食事時の汁物やおやつ時の水分補給で1日の水分量を確保できるように努めている		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	その人にあった口腔ケアを行っている。2ヶ月に1度、歯科医が訪問して下さって検診を行っている		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	チェックシート(時間別に排泄の有無、失禁の有無)を記入をしひとりひとりのパターンを把握し、声掛け等を行っている	時系列での排泄チェックシートを活用し、声掛け誘導で対応しているため、失禁がなくなり自立でできるようになった利用者が多いです。その自信から、心身ともに活気が出てきた例もあり、成功の連鎖が延びています。パットの大きさの工夫で家族への経済的軽減に繋がっています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	1日の食事量と水分量のチェックとレクの時間にマッサージ等を行っている。 指示薬をしている人もいる		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	要望があれば毎日入浴されている。 週4日は入浴されている	週3~4回入浴が叶っていて、毎日の希望にも対応しています。湯のはりかえは個々に行い、足拭きタオルも個別に対応するなど、水虫対策や清潔保持に努めています。全身観察による身体の変化には、早い取組みができています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	食事と入浴後、自由に過ごされ休息して頂いている。夜間も入居者様の意志で休まれている		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の管理と現在飲んでいる薬を一覧表にしている		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	入居者様が出来ることを職員と一緒にやってもらっている		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	散歩、ドライブ、買い物等日々の計画を立て実施されている	長短2コースを選ぶ、好天日の散歩は日常化しています。町のイベントで昔の街並み散策に参加したり、月1~2回あるドライブは、小国神社、コスモス畑、梅園などメニュー満載です。買い物も要望も増え、隣接市まで出掛けたり、家族との外出、外食、外泊もあります。	



自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金の管理ができる方は、おこずかい程度持っている。 買い物。外出等、支払いはご自身で行い職員は見守りをしている		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望があればいつでも対応している		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	掃除は定期と随時で行っており消毒も毎日行っている。 季節の花を玄関、フロア等に飾っている	階段の踊り場の壁には吊るし雑が、居間には季節の作品や着物生地をあしらったパッチワークの大作が飾られ、展示会の様相です。掃除は朝と夜、トイレ消毒も日に2回、手摺消毒もこまめに行われ、清潔保持の取り組みがあります。テーブルの花も季節を演出しています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	フロアのスペースの中でソファを用意してくつろげる空間を提供している		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室内は自由に使っている	カーテン、エアコン、クローゼットが備え付けてあり、冷蔵庫、加湿器の持ち込みなどもあります。 可愛い熊のプーさんカーペットを敷いて自分らしさをアピールする居室もあり、棚には思い思いの飾り物があります。換気と掃除は毎朝行われていて部屋は清潔に整理されています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	フロア、居室内、廊下等手すりがついている		